

岩上敬人著「パウロの生涯と聖化の神学」

＜ローマ書における聖化の教え（2）＞

「③私たちは『聖徒』（？！）」

テキスト：「ローマにいるすべての、神に愛されて
いる人々、召された聖徒たちへ。」（ローマ 1: 7）

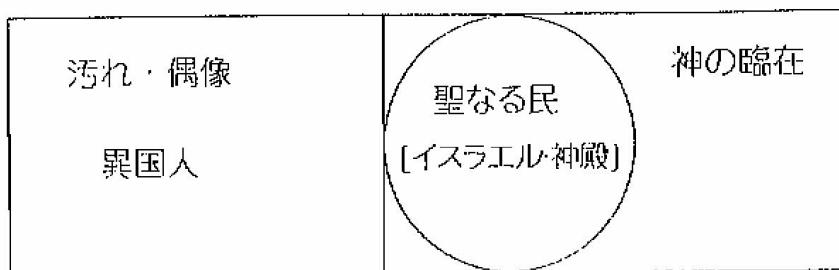
はじめに：パウロはキリストにあるすべての信仰者を「聖なる者」（聖徒）と呼んだ（1コリント1:2、2コリント1:1、エペソ1:1、ピリピ1:1、コロサイ1:1）

A. 旧約における聖徒

1. 聖の意味：「分離する、より分ける」→イスラエルが「聖」の源であられる神の所有となり、神の臨在の中に生きる民として選ばれたことを意味する。
2. 聖の土台：エジプトからの救いとその後に結ばれた契約が神の召しの土台である。
3. 聖の内容：礼拝（その場所、奉仕者、礼拝方法）や日常生活（食生活その他）におけるさまざまな「決まり」を守ることで、聖を学んだ。
4. その目的：①神の臨在の故の特殊性を示し；
②主権者なる神に守られ；③神のために生きる民となり；④他民族への証をすることが「聖」の目的であった。

非聖（Unholy）

聖（Holy）



B. 聖徒であるローマ人クリスチヤン

1. 聖の再定義：新約における聖徒とは「キリストに属し、キリストの領域に生きるもの」すべてである。クリスチヤンは、キリストの贖いによって、罪の汚れから聖なる民として召されたものである。
2. 聖徒への期待：新約の聖徒は、儀式的な聖さではなく、倫理的聖さの中に生きる。キリストにあって聖なる者となったすべての信仰者は、罪から離れ、聖潔に生きる事が期待されていた。
3. 聖徒の現実：しかし、実際は、聖なる者となった信仰者が罪を犯し、罪に戻っていく現実にパウロは直面していた。
4. パウロの勧告：立場的に聖なる者となった信仰者が、実質的（倫理的）に聖なる者となることがパウロの勧めである。それがローマ6-8、12-15の各章で詳しく述べられる。パウロが求めは、「罪とその力から離れ、神の力とその支配に献身して、従順に生活することである。」

